

「縦」の接続および「横」の連携・協働の視点について

1 国の第2期教育振興基本計画における主な記述について

生涯学習社会の実現に向けた「縦」の接続

家庭教育と幼児教育、各学校間、さらには学校教育と職業生活等の円滑な接続に十分意を用い、教育体系の多様化を含め、地域・学校の実情に柔軟に対応した教育を可能とする環境整備などを図っていくことが必要である。

また、親の学びを応援する観点や退職後の学習機会の確保の観点からも、例えば、子育て世代にとっては家庭教育に関する学習が、高齢者にとっては高齢期の生活を安心して充実したものとするための学習が重要となるように、ライフステージに応じた学習機会の確保が必要になることから、学習者の特性に応じた学習システムを体系的に整備していくことが重要である。

このように、個人の発達段階やその時々になら置かれている状況等を踏まえつつ、誰もが若年期から高齢期まで生涯を通じて、自らに適した手段や方法を選択しながら質の高い教育や学習に取り組み、必要とする知識・技術を習得できる社会の実現を目指す必要がある。（第2期教育振興基本計画から抜粋）

各セクターの役割分担を踏まえた社会全体の「横」の連携・協働

国・地方公共団体のみならず、学校、保護者、地域住民、企業など社会の構成員全てが教育の当事者であり、それぞれの立場において連携・協力し、社会全体の教育力を強化するための環境を整備することが必要である。（第2期教育振興基本計画から抜粋）

2 本日の協議課題について

- 縦に接続した函館らしい教育はどのようなものであるべきか。
 - ・これまでの協議を基に、地域人材を生み出していくためには、学校教育を含めた生涯学習においてどのような接続が図られるべきか。
- 縦に接続した教育を展開するため、各セクターはどのような役割を果たすべきか。
 - ・学校、家庭、地域、市など、それぞれどのような役割を担うべきか。
 - ・それぞれの役割を担うために行うべき取組・整備すべき環境は何か。